

奨励賞

## 障害者と健常者

横浜市立岡津中学校 3年

おちあい ひより  
落合 日陽

今、あなたの目の前で障害者の方が困っていたらどうしますか。

それは、習い事へ行くバスの中でのことでした。その日はどこかでお祭りでもあったのか、バスの中はとも混んでいました。何気なく乗っていると後ろの席の方から若い男性の怒っているような声が聞こえてきました。反射的にそちらを見ると、若い男性の隣には障害者の方が座っています。はっきりとは聞きとれませんでした。「邪魔」「もっとそっち行けよ立っけ」と、とにかくひどい言葉を障害者の男性に投げつけていたのです。周囲には沢山の人がいましたが、誰一人言葉を発する人はいませんでした。私も注意くらいならできたはずですが、でも、その時はその場にいた全員が怖かったのです。うかつに注意して逆ギレされ、自分に怒りの鋒先が向いたら嫌で、関わるのが面倒臭かったのかもしれませんが。スマホをいじったり、外を見たりして私を含め、その場の全員が見て見ぬふりでした。障害者の男性は本当に席を立ってしまいました。足にも障害があるようで杖をつけていました。またパニック状態になってしまっていて、大声を出したり頭を抱えたりして苦しそうでした。一方、怒った男性はイヤホンで音楽を聴き二人席に一人で座り、障害者の男性には目もくれませんでした。それどころか舌打ちをわざと大きな音でしたり、咳払いをしたり、私は見えていて本当に腹が立ちました。心の中では「お前が男性の立場だったらどんな気持ちになるか考える。」「自分のしている事が恥ずかしくないのか。」とずっとずっと思っていたのですが、とうとう口には出せませんでした。バスが終点に到着すると男性は障害者の男性だけでなく他の方まで押しのけて一目散にバスを降りていきました。するとこの出来事を近くで見ていた女性が障害者の男性に「大丈夫だよ。」「忘れなさい。」と優しい言葉をかけていました。しかし障害者の男性はよ

ほど怖かったのでしょう。おびえた表情で逃げるようにバスを後にしました。

私はその後ずっと、バスの中でどうして声をあげられなかったのか考えています。もしかしたら心のどこかで誰かが注意してくれるだろうという気持ちがあったのかもしれませんが。あの時勇気を出していれば、障害者の男性もあんなおびえた表情をしなかったかもしれない、と今も、後悔の気持ちでいっぱいです。

私が以前ボランティア活動に参加した時、障害者の方から「障害ってのはいいもんじゃない。健常者にとっての当たり前が私たちには当たり前とは言えない。一つひとつ時間がかかり一人でできない事もあるけど分かってほしい。私達も自分の体から逃げずに向き合っているから、皆さんも私達から逃げないでほしい。」と言われました。その言葉は私の心に強く響きました。

バスの中でのことを思い出すと今も胸が痛くなります。あの時の男性の不安な様子を私は一生忘れることはできません。

今この世の中で、障害という言葉や状況に対して正しく理解していない人がいるのは事実です。正直言って私も初めての難問を解くのと同じように、「向き合っ」と言われてすぐに理解し、向き合える事ではないと思っています。しかし、障害者だから健常者の仲間に入れてもらえない、比べられたりするのには絶対に、絶対にあってはなりません。障害者も健常者もこの地球上に暮らす人間です。長所や短所があっても当然です。もう一度言います。障害者も健常者も同じ人間です。何も比較する事はありません。

ボランティアに参加する等、自分に合った向き合い方を見つけ、一刻も早く一人でも多くの方が障害というものを理解し、共に笑顔で暮らせる世の中になることを願います。